

いのちと健康を守る活動

CMIP 校の教師に常備薬管理を —CMIP ジョジョのクリニック報告から—

私たちの支援金で実施できる巡回診療は年 10 回ほど、恒例となった MSU 同窓会支援を加えても、単純計算すると対象 50 村、各村 4 年に 1 回です。

巡回診療患者の 7 割程度が風邪です。薬草のラグング茶や市販の風邪薬を早めに服用すれば重症化を防げます。

ジョジョとも相談して、今年は CMIP 校にハーブ薬や市販薬を配備し、教師に管理と利用状況報告をお願いすることにして、その手当を予算化しました。

住民は学校のハーブ園手入れに参加し、巡回診療を待たずに、随時常備薬使用が可能になりました。

すでに、アトモロックのディダン、ラムアフスのマリオ、ナブルのマイラ先生から報告が届いたようです。医療保険加入指導もお願いしています。

<2013 年 4 月—6 月の報告より>

CMIP クリニック 対応患者	4—6 月（寮生、スタッフ関係者を除く患者は合計 10 名）。
巡回診療	4/29（レピム村） 歯科 28 名 一般診療 175 名（内訳詳細なし） 5/21（ラムマイ村） 歯科 30 名。 一般診療 139 名（内 75 名は風邪） 6/14（ダタルプロ村） 歯科 33 名 一般診療 215 名（内 149 名は風邪）
特別支援	5/6 民間療法で中耳炎を悪化させたアトモク村 14 歳の少女を専門医に紹介。5/22 肺結核が再発したアルカン村の 38 歳の女性に医薬品代支援 6/27 手当が遅れて足が化膿したミアソン寮の男子奨学生（18 歳）の破傷風予防接種や抗生物質代支援
医療保険 加入手続 指導	4/12（ダタルプロ村）4/29（レピム村）両村とも政府の 4P 通じて加入済み 5/28（バゴンラン村）ほとんど未加入。 (4P は最貧層救済の政府の教育医療支援)



巡回診療は上記の他、MSU 同窓会等の支援で 3 回実施、60 名の男児が割礼処置を受けました。バゴンラン村では軍医もボランティアで手伝いました。

ブラコン村参加で 4 村に増えた自主財源事業 — 7/16 付、PIHS 進捗状況報告より —

WE21 ジャパンみどりの支援による「村の健康推進のための自主財源創出事業」4 年目の現況報告です。

- * パリンバン町の 2 村対象耕耘機貸出事業：
今年度すでに 2.5 万ペソ（約 6 万円）の収益を上げ、研修施設を改修、妊婦検診のほか、家族計画、栄養改善の給食等、自主財源でヘルス活動も順調。
- * ティナガカン村のヤシ屋根材の共同出荷事業：
ヤシの葉運搬用に昨年支援の水牛の利用度が低く、収益は 5,000 ペソと少ないが、事業で支援の奨学生が積極的に参加したヘルス活動は順調。
- * トゥヤン村のムーランは、6 月の町制記念まつりにバニグ製品を出品し、売り上げ収入以外にベスト店舗に選ばれて 2500 ペソの賞金をもらった。
- * 今年が初参加のブラコンでは、25 名に始業資金 500 ペソが渡され、ヤシ屋根材の共同出荷が始まった。事業に含む幼児教室にも 20 名余りが通う。

無肛門症の男児（4 歳）の手術費カンパのお願い



排泄物がたまったポリ袋取り換えは、お姉ちゃんにもさせないという気丈なナセル君。腸が出ている患部を見せてくれました。
(5/27 現地訪問時撮影)

一部会員にはすでにメールでお知らせしたブラコン村（上記報告の事業地域の一つ）の先天性無肛門症のナセル君（4 歳・ビラーン民族）の再手術について、PIHS のナプサさんから、改めて支援要請が届きました。

ジェネラルトス公立病院と子ども専門病院での検査の結果、初回の手術による人工肛門を本来の位置に戻す手術を、8 月ダバオの病院で実施することになりました。

懸念された育児放棄の母親、出稼ぎで不在の父親の問題は、祖母と 14 歳の姉、近隣住民、ナプサさん他 PHIS スタッフの連携で対応することになりました。

総経費約 60 万円は、ナプサさんの姉アガさん主催のカフィン、ミンダナオ出身のシンガー・アリソンさんのグループ、そして、私たち HANDS が、それぞれ募金をさせていただくことになりました。

ご協力いただける方は、会費ご送金の折り、又は、別途、郵便局備え付けの振り込み用紙でよろしく願います。（一口 500 円。一次締切 8 月末）